

2015年3月31日

## 次世代医療 ICT 基盤協議会第1回会合への意見

東京大学・飯塚悦功

「力作」というに相応しい説明資料を拝見いたしました。多くのことが記載されていますので、今後このプロジェクトに関与する player のすべてが、何を実現するために、どのような行動原理に基づき、何をすることになるのかを理解し適切に行動していくことは、そう簡単なことではないと感じました。その意味で、（屋上屋を重ねる懸念はあるものの）本プロジェクトの全貌の理解を支援する Executive Summary が必要と感じました。

私の頭の中を整理する意味で、いくつかの確認と提案をさせて下さい。

## (1) 「目的・ねらい」の再整理

Slide2の「目的」に、「①【医療 ICT 基盤の構築】」「②【次世代医療 ICT 化推進】」と記述されていますが、これらは「効果」のボックスにある「質の高い効率的な医療の実現」「医療関連産業競争力向上」などの最終目的を実現するための方策と位置づけられます。「効果」の項に掲げられている事項間にも目的・手段関係、因果関係がありますし、この資料には「目的」実現のための方策について縷々述べられています。こうした目的・手段関係や因果関係を、端的に因果連鎖図、目的・手段関係図のようなものに表現できれば、全体像が広く理解されると思いました。

## (2) 「基本概念」の再確認

本協議会の名称である「次世代医療 ICT 基盤」がどのような概念のものであるか、あらためて明確にしておきたいと思いました。

「医療 ICT」とは、医療にかかわる広義の情報・コミュニケーションにかかわる技術を意味し、ここでは主にデジタルデータ（以下データ）の収集・蓄積・分析・活用に焦点をあてていると理解します。ICTの対象となる「データ」は、数値、画像、動画、音声、自然言語など電子化可能なあらゆる形態のデータであり得て、またそれらを構造化したもの、エッセンスを抽出し知識化したものなど、有用であるならどのようなものも対象になりうると考えます。

「基盤」とは、目的達成の基礎となる広義の社会インフラすべてを意味すると考えことにします。すなわち、上述の ICT の対象となりうるデータの「存在」とアクセス可能性、データ・知識の「構造モデル」、データ間の関係の「定義・連結」、データ処理の共通基盤（OS、アプリケーション）、分析方法、知識の構造的可視化、知識活用方法、推奨標準、これらの支援体制・組織、その維持・改善のメカニズムなどです。こうした視点で、WGのグループCとDには、今後も様々な候補が挙がってくる可能性があると思いました。

「基盤」の考察にあたっては、医療の「社会技術性」（社会技術＝社会が全体として保有すべき技術）を再認識する必要があると感じました。すなわち、医療 ICT 基盤に係る「社会常識」が共有され、医療技術・マネジメントに関する知識基盤が構築され、それらの普及啓発インフラが機能し、新たな知見の獲得がこの基盤に反映されるメカニズムが機能し、さらにはこれらが医療機関において適用されるようなインフラの重要性の認識です。

「次世代」とは、現時点で不十分な点、可能性があるにもかかわらず十分に機能していないことを実現する、ということを示唆していると理解します。具体的には、「デジタル情報化促進」、「統合・連携」、「知識化（知識の再利用性向上）」、「解析性向上」、「ユーザフレンドリー」などでしょう。「次世代」という用語が具体的に何を意味し、そのような時代に至るシナリオ、フェーズ、ステップと結びつけて説明されるとよいと思いました。

### (3) 「行動原理」の再確認

本プロジェクトの推進にあたり、行動原理とする事項について再確認しておいてはどうだろうかと思いました。今後様々な活動が展開され、様々な議論が起こると想定されます。多様な関係者の間で共有しておくべき思考・行動の原則、価値観のようなものを確認しておきたいと思いました。

例えば、以下のような事項です。

- ・ これまでになされた、あらゆる活動・試みを有効活用する。（過去の事績を否定せず、建設的に活用する）
- ・ 最終的な目的・目標イメージを見失わない。（手段の目的化を避ける）
- ・ 国民目線、利用者目線を尊重する（広義の「顧客志向」）
- ・ 優れたものが残る自然淘汰を原則とする（市場原理を尊重する）
- ・ 戦略性を持つ（前項にかかわらず、一定の方向性を維持する。やってみなければ分からないなかで、ある一定の路線は引いておきたい）

### (4) 重要事項

最後に、私が感じた重要事項を3点、簡単に記しておきます。

#### a) 代理機関

「代理機関」の果たすべき機能が極めて重要と感じました。上述した「基盤」の要になる組織と認識します。説明資料には、「大学、医師会、NPO、企業等を想定」と記述されていますが、民間では難しいように思います。（非常に残念で悔しいことながら）市場原理に任せて社会正義が行われるまでには、日本社会は成熟していないと懸念します。

#### b) 国際標準化・認証戦略

この数年で急速に進歩しましたが、国際標準化・認証制度の、国力・産業競争力に与える影響についての認識はまだまだですし体制も不十分です。「競争力は基準・ルールに依存する」という原則に対する理解が不十分ということです。数年のうちには、このプロジェクトの成果の国際標準化あるいは認証制度創設に向けての体制整備が必須と思います。

#### c) 医療における「マネジメント」の視点

このプロジェクトでは、主に診療技術支援の医療 ICT 基盤に焦点が当てられていますが、これらの診療技術を支えるマネジメントについても、診療業務プロセスモデル（業務プロセスモジュール群、それらの連結モデル）の可視化・標準化・普及の点での考慮も必要と思います。

以上